

TOPIC 6

名鉄尾西線刈安賀駅付近鉄道高架事業

西尾張中央道は岐阜県境から稲沢市に至る延長約13kmの幹線道路で、東海北陸自動車道、国道155号等と接続し、西尾張地域の交流や連携の強化と発展のために重要な道路となっていますが、近年の自動車交通の増大により、踏切遮断による交通渋滞が発生しています。こうした状況を解消するため、一宮市刈安賀駅付近において、
 (主) 岐阜稲沢線の踏切を始め3カ所の踏切を除去する鉄道高架事業の実施に向けて準備を進めています。また、鉄道高架後は、西尾張中央道の4車線化(片側2車線)を予定しています。



TOPIC 7

ご要望をいただいた中から、今年度中に実施の工事

1 領内川(上祖父江)内の伐木

領内川内の伸び放題の草木を伐採し川の持つ保水性を高めます。
 大橋から寺東橋付近までL=400m



2 野府川(三条)の護岸工事

過去に崩れかけた野府川の護岸工事を進めて参ります。

- ① 郷西橋下流左岸L=18m
- ② 三条橋下流右岸L=50m

3 西萩原北方線(小信中島)舗装修繕

小信中島地内の西萩原北方線は、この地域の中でも交通量の多い路線です。よって消耗も早く大きくなります。L=200m

皆様のご意見・お困りごとなど、電話・faxなどでお知らせください。公務のため不在のことも多々ありますので、ご来訪いただける場合は事前にご連絡いただくと幸いです。



佐藤ひでとし事務所

〒494-0012一宮市明地字江端前67番地
 ☎0586-68-0660 fax0586-68-0965



愛知県議会議員

ICHINOMIYA

令和2年3月

佐藤ひでとし 県政報告



愛知県議会議員として初本議会での一般質問で本格始動!



愛知県議会議員となり、初めての令和元年6月定例愛知県議会の一般質問に初登壇致しました。「高齢者の移動手段について」「小学生の登下校時の安全確保について」をテーマに質問致しました。その中の質問・答弁の抜粋を掲載します。全貌は愛知県議会HPで議事録の閲覧・検索録画中継がご覧いただけます。
<https://www.pref.aichi.jp/gikai/index.html>

高齢者の移動手段について

Q 国土交通省は高齢者が安心して移動できる環境の整備方策を2017年に中間取りまとめをした中で、許可、登録を要しない互助による輸送を明確化しましたが、あまり認知されていない。より広報を進めて理解を深めるべきと考えるがいかがか。

A 互助による輸送は、高齢者の移動のための有効な手段となるものと考えております。県としても国と連携をしながら、本県が主催するバス対策協議会や地域公共交通セミナーなどの場を通じて、市町村担当職員やNPOなどに対し制度の仕組みや実施例の紹介など周知していきたくと思います。

小学生の登下校時の安全確保について

Q 歩道と車道の区別のない通学路において路肩部分にグリーンベルトのカラー塗装をして注意喚起をしているが、県下市町村によって整備進捗度に差がきている。県としてどのように取り組んでいるのか。

A 県管理道路における路肩の安全対策は本年度中にすべて完了する予定です。一方、市町村によって進捗にばらつきがあり、国の交付金事業による対策を進めるとともに市町村から市町村道整備補助事業での対策実施に関する相談があれば、今後の対策の進め方を含め一緒に検討していきます。

Q 登下校時の児童を守るスクールガード(見守り隊)の皆さんの安全を守るための県の取り組みはなされているのか。

A 県教委ではスクールガード活動推進委員を公立小学校校区に一名以上指定し、研修会・情報交換会等を市町村又は学校単位で開催する事を要請しています。今後も市町村と連携を図り地域の実情に応じて安心安全に活動できるようにします。

Q 不審者対策として県は子供を守るためにどのような取り組みをしているのか。

A 教員の防犯意識向上、防犯安全マップ制作で危険予測回避、警察・市町村教委・学校・地域間での情報共有システムの構築、民間事業者との協力など地域ぐるみで子供の見守り体制を整備しています。先進的な防犯対策事例も収集し、警察や市町村との連携を密に児童の安全確保に努めます。

TOPIC 1

2020年度愛知県当初予算



愛知県の2020年度一般会計当初予算は2兆5722億円で前年比2.4%増と二年連続で伸び、過去最大となります。特徴的な事業としてスタジオジブリの映画の世界観を再現するジブリパークや、新市場を開拓するスタートアップ企業の支援拠点の整備など将来を見据えた投資を盛り込んでいます。

ジブリパークについて

県では、愛・地球博記念公園の魅力と価値を一層高めるため、同公園内にスタジオジブリ作品の世界観を表現する「ジブリパーク」を整備します。

5つのエリアを設置し「青春のエリア」「ジブリの大倉庫エリア」「どんどこ森エリア」の3エリアは2022年秋に開業予定。その1年後に「もののけの里エリア」「魔女の谷エリア」の2エリアを開業する予定です。

国内外より世界でも類を見ないジブリの世界観を表現するため、愛知県事業で初めてECI方式を活用した実施設計を行います。また今年度工事費は27億5千万円、総工費は約340億円となる予定です。



ステーションAi スタートアップ支援拠点について

この地域の新しいビジネスモデルを開発するのを創出育成し、海外展開を促すとともに、世界から優秀なスタートアップを呼び込むことで世界から優秀な人材を集める。さらにスタートアップと地域のモノづくり企業等の交流を図ることにより、新たな付加価値が創出される総合的な拠点となることを目指しています。「ステーションAi」整備場所は名古屋市昭和区鶴舞1丁目で、供用開始は2022年11月の予定です。

私立高校の無償化を拡充

国は2020年度から、私立高校の授業料を年収に応じて実質無料化する制度で、愛知県は独自に補助額を上乗せする方針を決めました。国は年収590万円未満の世帯を無償化するのに対し、県は年収720万円未満の世帯にまで拡大。私立高校生の約半数が対象となります。また、県は入学金や通信制高校分の補助まできめ細やかな制度となっている。私もこの制度を作り上げる自民党私学振興議員連盟PTの一員として活動できたことが嬉しいです。



工業高校は工科高校と校名変更

愛知県は2021年4月に県立の工業高校と窯業高校の計14校の校名を工科高校に変更します。グローバル化、デジタル化の進展に伴う産業界のニーズ変化を踏まえ、技術革新に対応する理系人材を育てる狙いがあります。

一宮市では、起工業高等学校が一宮起工科高等学校、一宮工業高等学校が一宮工科高等学校に校名変更・学科改編され、ロボット工学科・IT工学科なども設置されます。



TOPIC 2

新濃尾大橋(仮称)着々と進む!

2012年に着手された橋長759mの新濃尾大橋(仮称)ですが、10基の橋脚・橋台もあと少しとなり、今年度は上部工事の発注がされたところ。いよいよ橋の形が近くなってまいりました。この橋が完成すれば、濃尾大橋での渋滞が緩和されるほか、尾張と美濃の経済・文化の交流、活性化が図られ、災害時には緊急輸送道路として地域の安全・安心が確保されることが期待されます。また、橋より早く県道羽島稲沢線が開通する予定となっています。



TOPIC 3

東海北陸自動車道 西尾張インターチェンジ(仮称)について



西尾張インターチェンジ(仮称)は、尾張西部地区から東海北陸自動車道へのアクセス強化及び主要地方道岐阜稲沢線の渋滞緩和を目的として、一宮ジャンクション付近において愛知県が地域活性化インターチェンジとして事業を実施しています。

平成21年度に事業着手し現在橋梁の上部工等を実施しており、いよいよ2020年度開通予定となっています。

TOPIC 4

日光川2号放水路事業について

昨年、日本は台風19号など豪雨による災害がありました。私は台風19号で多大な被害を受けた宮城県丸森町に調査に参りました。当時、一級河川の阿武隈川が満水状態で支流の五福谷川・新川が溢れ、越水した水が堤防の外側を削り決壊したということでした。

一宮市でも日光川が心配な河川となっており、稲沢市・愛西市・あま市・津島市・弥富市・蟹江町・飛島村に至るまで広域的に大きく影響があります。日光川2号放水路事業は、日光川上流部の野府川より県道大垣江南線の地下に内径5.5mの放水路(管内貯留容量約5万m³、25mプール100杯分)をつくり洪水時には木曾川に毎秒60m³放水できるようになり、日光川水系下流まで影響する有効な事業となっています。現在は用地測量・詳細設計・用地交渉などが進められ、10年程の目標が立てられています。総工費も300億円ほどかかることから、私共も関係首長様とともに国への陳情を重ね、推進を図って参ります。



TOPIC 5

名岐道路について

現在、名古屋高速道路は名古屋から「一宮中」入口まで整備されていますが、国道22号の慢性的な渋滞を緩和、解消させるためには岐阜県の岐南ICまで、名岐道路の高速化を図ることが必要です。昨年、全線立体構造とすること等の対応方針を社会資本整備審議会です承され、また一宮木曾川ICまでの約6kmを優先整備区間とされました。